

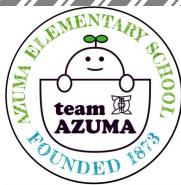
# あずま小学校だより

学校通信

第15号

令和8年1月9日

学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 たくましい子



## 3学期始業式から

1月7日(水)1校時にリモートによる3学期始業式を行いました。そこで3学期に臨む心構えについて子どもたちに次の話をしました。

新年のあいさつをしましょう。おはようございます。今年もよろしくお願いします。

冬休みが終わりました。冬休み中に病気やけがの連絡はなく、今日こうして皆さんと無事に会えたことをうれしく思います。

さて、今日から3学期がはじまります。1、2学期に比べるとあっという間に過ぎてしまうのが3学期です。でも、3学期は、実は次の学年への準備をするとても重要な学期です。皆さんには、3ヶ月後の4月には、1つ進級して、1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生に、5年生は最高学年の6年生に、6年生は進学して中学生です。その準備として、3学期は次の3つのことに取り組んで、4月への準備をしましょう。

1つめは、「3学期の目標をはっきりと決めよう」ということです。自分のこれまでやってきたことを振り返り、さらに伸ばしたり改善したりする点をあげましょう。たくさんある人は全部でなく、いくつかに絞るといいです。「授業に集中する」「宿題を忘れない」「けんかをしない」など、今の自分をもっと成長させるために勇気を持って目標を決めてほしいと思います。

2つめは、学習です。1月15・16日に1年間のまとめテストがあります。皆さんのがこの1年間で学習したことがどの程度身についているかを図るテストです。3学期の授業が始まつたら、これまで以上に勉強に力を入れ、テストに全力で臨みましょう。

最後に、進級・進学したときのイメージを持ち、今の3学期を過ごしましょう。6年生はどんな中学生になりたいですか。中学生は小学生と何が違うのでしょうか。それは、3年後の進路を自分の責任で決めていくことだと校長先生は考えています。中学卒業後の将来は決まっていません。自分で切り開き実現させるのです。決断と覚悟が必要です。こう考えると、3学期の過ごし方に対して気が引き締まる思いがしませんか。

5年生はどんな最高学年になりたいですか。まずは今の6年生のこれまでの姿をまねてみることが大事ですね。特に卒業式での6年生の姿をよく見て、来年は自分達もこうして立派に卒業していくのだという気持ちを作ってください。

1年生はどんな2年生になりたいですか。新1年生が入学してくると皆さんはお姉さんお兄さんになります。新1年生のよい手本になるよう、3学期も真剣に授業を受け、廊下は静かに歩き、時間を守り、明るく楽しく元気に3学期を過ごしましょう。これは2年生も3年生も4年生も同じだと思います。

進級・進学まで残り3か月です。3学期が充実した学期となるよう期待しています。



7日3校時、3学期の係会議の様子。配り係など、それぞれの係ごとに目標などを決めたりします。

3学期は現学年での1年間の総括と次学年への進級や中学への進学の準備をする学期です。特に6年生は、6年間の努力の達成感と喜びを実感できるように、また、新たな生活への決意とお世話になった方々への感謝の気持ちが持てるように支援していきたいと思います。加えて、最高学年となる5年生には、学校を引っ張っていく自覚が育つと大変うれしいです。

# 学校掲示物から紹介します

北校舎東階段2階の壁に食育に関する掲示物があります(右写真)。給食時に食育講話を受け持つ調理場の先生方が、月ごとに作成して掲示しているコーナーで、今月は全国学校給食週間(1月24日～30日)に関するお知らせです。



全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割への理解を深め、食への感謝と食育を推進するための1週間です。戦後の食糧難の時代に、外国からの援助で給食が再開されたこと(学校給食感謝の日:12月24日)を記念し、冬休みと重ならない1月に設定されました。この期間、学校では歴史を振り返る献立や、食に関する様々なイベントが行われます。あづま小では、1月27日に「初めての給食」のメニューが提供される予定です。ちなみに、歴史を振り返る献立も一部紹介します。



これが初めての給食。1/27はご飯、コーヒー牛乳、鮭塩焼き、たくあん、豚汁。一汁三菜のため豚汁付き。



先日、食育に関する記事を読む機会がありました。そこには「おいしいものを食べる」と「おいしく食べる」の違いについて書かれていました。「おいしいものを食べる」はそのままの解釈で人によって大きな違いはなさそうですが、「おいしく食べる」は考える必要があります。緊張する相手が一緒だとどんなにおいしい料理でもおいしく感じる余裕はありませんが、気の許せる仲間との会食は楽しいので、おいしく食べることができます。子どもたちにとって、学校給食が「おいしく食べる」場であってほしいと思います。

## 感謝の心について

先の給食に関して、能登地震での学校給食について思い出すことがありました。能登地震では、震災後に学校が再開しても今まで自分が通っていた場所ではなく、別の学校などを借りて授業を始めた学校も多くありました。また、給食が用意できない学校もたくさんありました。当たり前に通っていた学校にいけない、給食もいつ食べられるようになるのかわからない状況というのはとても不安なものでした。私たちは、こうして学校にいつも通り「当たり前」に通っていて給食もある。でも、それは実は「当たり前ではない」ことに気づき、普段通りであることに感謝の気持ちを持つことが大切なだと気づかされました。

感謝とは、感動する心を持った人にある心の様子です。「いつもと同じように学校に通えてありがたい」「毎日給食を食べることができてありがたい」という日常に感動できることが感謝につながります。何気なく過ごしていて気づきにくいそういうことに感動する心を持つことも大事だと感じます。

